

# おかめ

# 新聞

戸田屋正道

初夏号

おかめマークは、創業者のおばあちゃんの似顔絵です。戸田屋正道のイメージにピッタリなので、イメージキャラクターに採用しました。今ではすっかり戸田屋正道のブランドイメージになっています。

## 菓美彩譚

かびさいたん

代表取締役 戸田健志



おかげさまで社長の座に就かせていただいていたから二年が経ちました。今までとは違う立場で改めて会社の一年間の流れを肌で感じ、これまでの先達の思いや苦勞を痛いほどに実感した一年でした。この経験をもとに、今後も社業発展の為、お客様への恩返しに邁進して参りますので、変わらぬご指導をよろしくお願ひ申し上げます。

話をさせて頂く講演依頼も増え、社外に出歩く機会が増えました。基本的に頂いたご依頼は全て、和菓子の普及の為に、お引き受けさせて頂いておりますが、学歴も知性も備えていない私の講話で、せつかくご聴講下さる方に不快な思いをさせてしまいかと、毎回不安に駆られ、開演前は緊張で胃がキリキリしています。そんな時は、決まって、自己暗示をかけ、「お前はただの菓子屋だ。喋りで日銭を稼

いでいるんじゃない、あくまで本業は菓子屋を作ることだ」と自分を戒め、人前で自分を良く見せたい欲求から緊張が来ているということを反省しています。

うちの初代夫婦も、「菓子屋はいいお菓子を作る事が菓子屋の仕事。人前に立つて目立つ必要なんかない」と常々言っておりました。もちろん、いろんな役を頂く事や、講話の機会を頂く事、すべて「頼まれ事は試され事」と自分を成

長させてくれるチャンスと受け止め、ありがたく引き受けさせて頂きますが、それに勘違いをしてしまわぬよう、あくまで「ただの菓子屋」の精神を忘れず、美味い菓子作りに精進して行かねばと自分に言い聞かせています。

私が調子に乗ってきたとか最近偉くなってきた等の変化は、戸田屋のお客様が番見えてくださる事。どうか私が勘違いして道を踏み外してしまわぬよう、今後も厳しい目で見守ってくださいますようお願い申し上げます。

## 「和菓子の日」とは？

承和15年(848年)国内に疫病が蔓延したことから、仁明天皇が6月16日に菓子や餅を神前に供え疫病の退散を祈願して、元号を「嘉祥・かじょう」と改めたことにはじまると伝えられています。

「嘉祥の祝」は後醍醐天皇の御代から受け継がれ、江戸時代になると「健康と招福」を願う行事として、この日に嘉定通宝16枚で菓子を求めて食べる風習が庶民の間にも広がり、欠かせない年中行事となりました。その「嘉祥の祝」を現代によみがえらせたのが「和菓子の日」です。

「和菓子の日」には健康と招福を願って和菓子をお召し上がりいただくと共に、大切な方や親しい方々の健康を祈って和菓子を贈りましょう。



## 隠居日和

隠居 戸田正宏

数ある学校の内の小さな小学校ですが、他の小学校との違いを見つけるとすれば、校歌の違いしかないと考えます。私はそこに五小のアイデンティティを見つけました。

そしてこれからも五小の校歌を口ずさみ、仲良く元気よく、強く明るく生き抜いて(息抜いて)いきます。

どんな風が吹こうともびくともせずに立っているみんな仲良く元気よく強く明るく生き抜こう

始めは少し幼稚な歌だと思っていました。この歌に何度救われたことでしょうか。辛いとき、悲しいとき、落ち込んだ時に、なぜか自然と口ずさんでいるのです。五小が私を頑張れ！と励ましてくれます。元気がなくなって頑張れなくなります。

戸田屋のお客様にはなしろうかがいました。



阿部英介さん

ファンクラブナンバー 037

## おかめファンクラブ

1970年山形市生まれ。大学卒業後ヤリギターに入社。その後ギター制作家トム・リベッキーに師事。2003年山形市で工房 ABE GUITARSを開く。

## オーダーメイド職人として、理想のギターを追い続ける。

戸田屋さんのお菓子はどれも気に入ってまんべんなく食べていますが、いちご大福は格別な美味しさです。最近では令和饅頭もいただきました。

大学では「フォークデュオ」をやっていたがプロになれるわけもなく、でもギターに関わりたいのでギターメーカーに就職。その後、ギター制作を知るには本場アメリカに行くべしと考え渡米しました。行ってびっくり、自分はギターの何たるかを全く知らなかった事、自分には技術がない事を思い知り打ちのめされました。師匠は優しいので失敗しても叱責はしませんがダメ出しの連続。1週間かかってOKが出てダメとの違いが何なのかがよくわからない。2か月が過ぎてようやく「クオリティの高さ」を求められていると気がつきました。メーカーではわからなかった価値基準を理解できた事は、大きかったと思います。今もずっと追いつけていますよ、満足はしていません。

ごまかしのないものを作るという理念を戸田屋さんでは掲げられていますが、いかに誠意をもって対応するかというのは、お菓子・ギター共に、ものづくりをする仕事において共通するのではないかと思います。

「緑の竜山仰ぐたび 希望が胸に湧いてくる 歌なのでしよう。」

歌を口ずさみ、仲良く元気よく、強く明るく生き抜いて(息抜いて)いきます。